

Newsletter

Vol. 12



チュラロンコン大学 - 東京医科歯科大学
研究教育協力センター

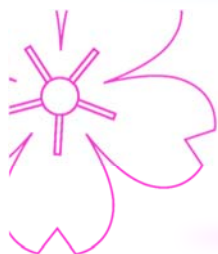


CU-TMDU Research and Education Collaboration Center, Thailand

March 31st, 2019

目次:

- | | |
|--------------------------------------|---|
| ① チュラロンコン大学のAtiphan准教授にコーディネーター職を再委嘱 | 1 |
| ② マヒドン大学における医学科2、3年生の集団研修 | 2 |
| ③ 医学科学生の子タイ派遣（プロセメ） | 3 |
| ④ 国際歯科研修プログラム | 4 |
| ⑤ バンコクにおける国際FDコースの開催 | 5 |
| ⑥ Tri-Universityコンソーシアム会議 | 6 |



① チュラロンコン大学のAtiphan准教授に コーディネーター職を再委嘱

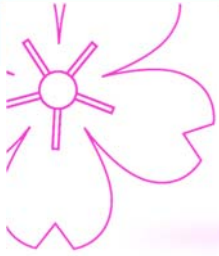


アティバン先生（右）と田賀特命副学長（左）

本学のタイ拠点「チュラロンコン大学—東京医科歯科大学研究教育協力センター（CU-TMDU Research and Education Collaboration Center）」は、2010年に開設され、今年で10年目を迎えます。開設当初から本センターのコーディネーターとしてご協力いただいているAtiphan Pimkhaokhamチュラロンコン大学歯学部准教授に、このたび再度コーディネーター職の任をお願いいたしました（2018-2019年度）。

Atiphan先生は本学大学院を修了されており、タイの歯科同窓会組織（JDAT：Japan Dental Alumni in Thailand）でも活躍されています。Atiphan先生の来学時に、田賀哲也特命副学長（国際担当）より、CU-TMDUセンターのコーディネーター委嘱状をお渡ししました。■

✧ タイ拠点運営管理者
健康推進歯学分野
教授 川口 陽子



② マヒドン大学における 医学科2, 3年生の集団研修

2017年3月の7名に引き続き、2018年3月には第2学年の9名、第3学年の5名、合計14名の学生がマヒドン大学における短期見学研修に参加しました。

タイ・マヒドン大学シリラート病院医学部は、1888年創立された、120年以上の伝統を持つタイで最初にできた医学校である。チュラロンコン王（ラーマ5世）により、タイの国民のための「(タイ)王国の病院」をモットーとして設立され、2000床以上あるシリラート病院は毎年250人以上の医学部卒業生を送り出しています。

今回のプログラムの多くは、マヒドン大学シリラート病院医学部の見学に充てられました。

まず案内されたのは、医学生・医師のみならず多くの医療職種が利用する医学教育シミュレーションセンターでした。この施設は、本学のスキルラボと違って部屋がたくさんあり、OSCE等の試験にも使える施設です。学生はBLSを行うためのシミュレーターが並ぶ部屋を見学し、模型を聴診しながら様々な疾患の心音・呼吸音等を聴診することができるシミュレーターで実際に聴診を行い、目を輝かせていました。シミュレーションセンターのほかにも、医学生が採血や導尿等の基本的な手技を練習するための部屋など、複数の充実した施設を見学することができました。また、解剖体を用いた手術トレーニングセンターいわゆるカダバードレーニングセンターでは、内視鏡を使った手術手技を練習するシミュレーターを使用し、かわるがわる手術操作をさせていただきました。

病院の敷地内には、多くの標本が展示されている歴史ある博物館が多数あります。病理学、医動物学、法医学、解剖学等の博物館を見学しました。解剖学の博物館では昔から使われていたであろう、奇形の胎児を含む多くの貴重な標本が展示されており、寄生虫の博物館では病気がある地域の環境・食べ物が再現されている大きな展示があり、法医学の博物館では、古典的な標本に加えて2004年の大規模な津波被害の映像など豊富に取り入れており、多種多様な博物館に様々な刺激を受けました。

多くの施設の見学に加えて、学生との交流の機会を持たせたことも、大きな成果でした。まず、基礎医学を学んでいる第2学年の「ホームベース」と呼ばれる部屋を見学しました。20~30名の学生でひとつ部屋を使用しますが、学生一人一人に専用のPCや顕微鏡が供えられた机が用意され、中央には実験台があり、基礎医学の実習・講義時間後の自習等に活用されていました。一つ一つの部屋は中央からモニターで監視でき、試験にも用いられているとのことでした。学生たちは数名ずつに分かれて現地の学生にどのように学習しているかなど、学生生活全般について話を聞いていました。同時期にシリラート病院で行われていた、ASEANの学生が集まって「医学の問題を英語で回答する大会」を見学することができ、アジア諸国の学生たちの語彙力・知識などに圧倒されていました。自分たちも語彙を増やして知識を増やしたい、と学習意欲を刺激されていました。

その他、充実した薬草の植物園がありバスで敷地内を移動する必要があるほど広大な教養部、タイ古式医学の部門なども見学し、実技を経験し、幅広い体験をすることができました。どこに行っても学生やほとんどの職種のスタッフが少々片言であっても笑顔で英語を使って説明してくれる姿勢も、学生たちの意欲向上につながっていたと思います。このような機会を提供してくださった関係者の方々に感謝します。■



手術シミュレータを試す学生の様子

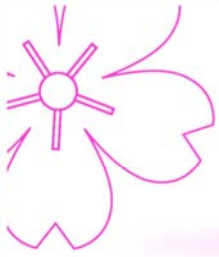


「ホームベース」への訪問



タイの伝統を体験

✧ 統合教育機構
講師 山口久美子



③ 医学科学生のタイ派遣（プロセメ）

私は病理学研究室に所属し、タイでは依然として蔓延している結核について研究を行いました。研修医の方々は非常に優しく、6ヶ月の中で大学のイベントや、タイの食文化をたくさん知ることができました。日本に興味のある方も多く、日本語を教えたり日本流の礼儀を教えたりと、お互いに活発に会話をしました。大学の部活に参加することができ、とても良い息抜きをすることができるとともに、同年代のタイの医学生とコミュニケーションをとる良い機会になりました。■

✧ 只縄 友香 医学科 5年生



「先生の日」お世話になっている先生にお花をプレゼントする日だったので、私も研修医の方に混じって担当して下さった教授にお渡ししました。



医学部の部活に参加させてもらい、学生交流を行いました。

私はタイのチュラロンコン大学解剖学分野のApiwat 先生の研究室にて末梢血中の白血球上の遺伝子発現に着目した肝細胞癌マーカーの研究を行いました。加えて、リバプール大とのバイオインフォマティクスに関するジョイントプログラムを受講させていただくことができ、貴重な技術と知識を身につけることができました。

多くの現地学生並びにイタリアや台湾、ロシアといった様々な国から来た学生たちと一緒に学習・研究をしたりプライベートの時間を楽しむことができました。また、休日には都会の喧騒を離れタイの雄大な自然を楽しむなどして、心身ともに極めて健康で穏やかな日々を過ごすことができました。■

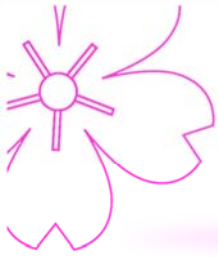
✧ 陸 祥児 医学科 5年生



研究室の人たちによるフェアウェルパーティーです。



自然公園の洞窟の写真です。雄大なタイの自然を存分に楽しみました。



④ 国際歯科研修プログラム

International Dental Training Program

2

018年10月9日～16日に、本学において国際歯科研修プログラムを開催いたしました。タイからは、チュラロンコーン大学3名、シーナカリンウィロート大学4名、ナレスワン大学2名と、計9名の学生が参加しました。他



I DP参加学生



オリエンテーションの様子

に、インドネシアのインドネシア大学から2名、ベトナムのホーチミン医科薬科大学から2名と、本学と学術交流協定を締結している東南アジアの大学から、合計13名の歯科学生が歯科医療技術や歯科材料について学んだり、本学の学生と一緒にさまざまな活動を体験するプログラムに参加しました。

4か国の学生同士が仲良くなれるように、オリエンテーションのあと、ペアとなって自己紹介を行い、それを全員の前で相互に他己紹介して、英語で自由に話す機会を設けました。その後、海外の学生と本学学生が4つのグループに分かれて、『理想の歯科医師像』というテーマでワークショップを行いました。



留学生によるTMDUの紹介



インドネシア学生によるパフォーマンス



楽しい文化交流

その中では、KJ法を使用したグループディスカッションを行い、その成果を代表者がプレゼンテーションし、活発な意見交換を全員で行いました。国や大学は違っても、理想の歯科医師についてはどの学生も同じような考え方を持っていることを学生自身が認識することができ、お互いに絆を深めることができました。

研修プログラムでは、日本の最先端の歯科医療技術や歯科材料を知るための講義や実習を行いました。さらに、本学で学んでいる留学生から、日本での留学生活や日本語の勉強について、直接話を聞く機会が設けられ、今回の研修プログラムに参加した海外学生が、将来、歯科大学を卒業後に、本学の大学院博士課程に進学するための情報提供も行いました。

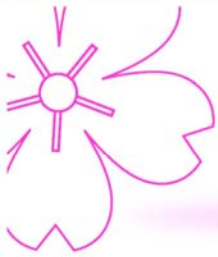
また、地震シミュレーションや消火訓練を行って、災害時の危機管理を学ぶプログラムも海外学生は体験しました。研究期間は本学のお茶祭が開催された時期だったので、週末には海外学生は自国にはない日本の大学文化祭を体験することもできました。さらに、文化交流会では、各国の伝統的な歌や踊りが紹介され、異文化理解を深め、楽しい交流の場とすることができました。若い学生同士の交流が、将来、国際医療・歯科医療ネットワークの構築につながることを期待しています。■



歯学部長による修了証の授与

✧ 健康推進歯学分野

教授 川口 陽子



⑤ バンコクにおける国際FDコースの開催



国際FDの日本とタイの講師陣



保坂助教の講義風景

2019年1月23-24日にバンコク市内において国際FDコースを開催しました。この国際FDコースでは、世界の歯科医療従事者を対象に最新の臨床歯学等についての国際歯学教育を展開することを目的としています。トライアルベースでのコースは日本国外でも2017年に行っていましたが、ホームページ等世界に情報発信して参加者を募り、日本国外で開催される本格的な国際FDコースの実施は初めてです。

東京医科歯科大学からの8名（駒田亘講師（摂食機能保存学分野）金澤学助教（高齢者歯科学分野）、水谷幸嗣助教（歯周病学分野）、保坂啓一助教（う蝕制御学分野）、駒ヶ嶺友梨子助教（高齢者歯科学分野）、關奈央子助教（統合国際機構）村田直係長（統合国際機構）、井上莉沙係員（統合国際機構））に加え、タイの教員4名（Dr. Atiphan Pimkhaokham（チュラロンコーン大学）、Dr. Kajorn Kungsadalpipob（チュラロンコーン大学）、Dr. Chaimongkon Peampring（プリンス・オブ・ソクラ大学）、Dr. Taweesak Prasansuttiporn（チェンマイ大学））とのコラボレーションによるシンポジウム形式のコースを提供しました。参加者は延べ37名で、事後アンケートからは参加者の高い満足度が伺えました。

1日目の午前はインプラントのセッションであり、金澤助教がインプラントオーバーデンチャーの最前線について、Dr. Pimkhaokhamが現在のインプラント治療におけるデジタルツールの活用法など、インプラント治療の最新状況について講義を行いました。午後は歯周病学分野の水谷助教が再生医療におけるMI (Minimally Invasive) 治療について、Dr. Kungsadalpipobが骨と歯を保存するための臨床ポイントについて講義を行いました。

2日目の午前は駒田講師のレジンコアについての講義からスタートし、続いてDr. PeampringがCAD/CAMについて講義を行い、午後は修復のセッションで、保坂助教とDr. Prasansuttipornがコンポジットレジン修復の応用性について講義を行いました。いずれのセッションも講義後に、講師と参加者との間で活発なディスカッションが行われました。

2日間のFDを通して、最新の歯科医学・歯科医療に関する情報交換だけでなく、日本とタイの歯科医師間の絆が深まり、ネットワークが強化されました。■

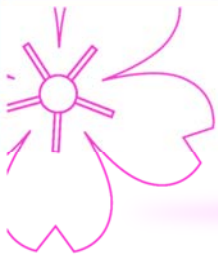
✧ 統合国際機構
助教 關奈央子



Dr. Peampringの講義を受ける参加者



金澤助教（左）とDr. Pimkhaokham（右）



⑥ Tri-Universityコンソーシアム会議

2018年11月30日、第6回Tri-Universityコンソーシアム会議が本学で開催されました。本コンソーシアムはタイ、中国、日本を代表するチュラロンコーン大学、北京大学、本学の3大学の歯学部間で2010年に締結され、第1回会議は2011年にチュラロンコーン大学で行われました。それ以降、毎年、3大学持ち回りで会議を継続しており、本学主催は2度目になります。チュラロンコーン大学、北京大学から、歯学部長をはじめ計19名の参加があり、本学の教員や大学院生を交えた会議が行われました。

午前のセッションは3大学の歯学部長による基調講演で幕を開けました。チュラロンコーン大学のPoolthong 歯学部長は、「Chura Ariと呼ばれる高齢化社会に向けた取り組み」について、北京大学のGuo歯学部長は「国際共同研究の取り組み」について、本学の興地歯学部長は「歯学部カリキュラムにおける新しい取り組み」や「最先端口腔科学研究推進プログラム」について発表し、将来の歯学教育・研究について活発な討論が行われました。引き続き各大学の最新の研究成果の紹介が行われ、本学からは顎顔面解剖学分野の柴田教授と咬合機能矯正学分野の小野教授が講演されました。また、口演発表も行われました。

午後は株式会社ジーシーの「GCコーポレートセンター」の見学が行われ、海外の先生方は、日本の歯科材料・器械の開発状況を視察し、熱心に情報収集をしていました。また、摂食嚥下機能が低下した高齢者の食の支援施設「カムリエ」に興味深く見学しました。ポスターセッションは第83回口腔病学会学術大会との共催で行われ、臨床から基礎まで幅広い演題の発表がありました。大学院生による発表も多く、会場は熱気であふれていました。

懇親会も口腔病学会と共催でFaculty Loungeで行われ、参加者はM&Dタワー最上階からの夜景を楽しみ、旧交を温めたり、新たな協力関係を築いたりしていました。この会議がきっかけとなり、三大学の連携がさらに強固なものになることを祈念しております。■

✧ 先端材料評価学分野

教授 宇尾 基弘



第6回Tri-Universityコンソーシアム会議



ポスター発表の様子

【発行日】 2019年(平成31) 3月31日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

<http://www.tmd.ac.jp/international/base/thai/index.html>

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,

11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,

Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand